

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

意見提出元	福島テレビ株式会社
-------	-----------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望	<p>我々放送事業者は、放送事業用として割り当てられ運用している3.5GHz帯放送番組中継用周波数を第4世代移動通信システム等の移動通信システムに割り当てるとした電波政策に沿い、3.5GHz帯から他の周波数帯への移行を進めており、弊社においても今年度末に福島県いわき地区からの番組素材中継固定回線いわゆるTSL回線のマイクロチャンネル変更工事を行う予定で、ワイヤレスブロードバンド実現を目的とした電波行政に理解をもって十分に協力しております。</p> <p>また、地上波テレビジョン放送のデジタル完全移行によって空いた周波数は、現在検討が進められている携帯端末向けマルチメディア放送や、ITSと呼ばれる高度道路交通システムに利用され、これらの高度情報化システムは国民生活の向上に寄与するものと期待されます。</p> <p>一方、放送事業者が全国で周波数を共用する800MHz帯FPUは、その電波の特性上見通し外や移動体からでも安定した映像音声を伝送する事が出来るため、主に機動性を要求される報道制作番組において利用されています。今後の活用を広げる新技術として平成18年から平成21年度にかけて行われた「800MHz帯映像素材中継用移動通信システムの高度化のための研究開発」は、狭帯域での高精細度信号伝送を可能とするものであり、番組制作放送を通してのワイヤレスブロードバンドの一端に貢献するものと期待するものです。</p>
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題	<p>前項記述の800MHz帯FPUを利用する放送事業者の意見として、「800MHz帯映像素材中継用移動通信システムの高度化のための研究開発」の成果を制度化し、周波数帯域幅を広げることなく狭帯域でのハイビジョン番組制作を可能とする技術基盤整備が課題であると考えます。</p> <p>800MHzという電波の伝播特性を活かし、機動性の高い移動車両や見通しの無い中継現場からの番組伝送に加え、さらにこれらの伝送がハイビジョンになることは、報道番組、スポーツ番組制作等の活用範囲が格段に広がるものと思われれます。</p>
(3) 関連する国内外の動向と課題	<p>以前、マラソン・駅伝中継等のスポーツ番組における移動中継車からの伝送は、上空を飛行するヘリコプ</p>

ターにアップリンクし、さらにヘリコプターから地上の受信基地にダウンリンクするという手法を取っていました。その後 800MHz 帯 FPU の技術開発によりヘリコプターへのアップリンクを必要とせず、移動中継車から地上受信基地に直接伝送するシステムが構築され、移動中継番組制作を行う放送事業者にとっては、今や欠かす事の出来ない無線システムとなっています。

総務省委託事業の研究開発による新方式の制度整備は、今後の 800MHz 帯 FPU の更なる利用拡大を図るものと期待されます。